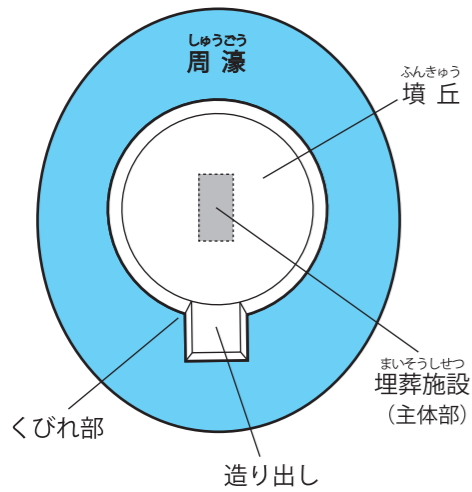


## 埋没古墳群の発見

今回の調査の結果、計8基の**埋没古墳**が見つかりました。埋没古墳とは、後世の削平や洪水など様々な要因で土の下に埋没し、現在地上からは姿を見ることができない古墳のことを指します。この埋没古墳は、発掘調査では周濠だけが見つかる場合が多くを占めます。西宮市域で埋没古墳が見つかったのは**初めての事例**です。今回見つかった8基の埋没古墳は、円墳が2基、方墳が6基です。1号墳を除く2～8号墳は、見つかった埴輪や須恵器の特徴から、古墳時代後期（6世紀代）の築造であると考えられます。

2区で見つかった**8号墳**（円墳）は、今回見つかった古墳のなかで最も大きく、墳丘の推定径は約21m、周濠を含むと推定径約30mの規模です。また、南西部には**造り出し**という突出部を確認しました。造り出しは祭祀を行うための場所であると考えられています。8号墳の周濠からは多数の埴輪や須恵器が出土しました。特に墳丘と造り出しが接する**くびれ部**の周辺からは、円筒埴輪だけでなく**形象埴輪**（石見型、馬形、人物）も多く見つかっています。これらの埴輪は造り出しの上に立て並べられていたものが転落したと考えられます。



8号墳の復元と古墳の各部名称



8号墳周濠から出土した須恵器（はそう）

## おわりに

今回の調査では、**西宮市域で初めて埋没古墳群**を発見しました。この古墳群は古墳時代後期を中心に築造され、古代（飛鳥～奈良時代）には既に削平されてしまったと推測できます。確認した8基のなかでも、8号墳は、古墳の形状や周濠で見つかった遺物などから、津門地域の**首長の墓**である可能性が考えられます。

これまで津門地域に古墳が存在すると推測されていましたが、今回の調査によって埋没古墳群を確認したことで、それを裏付ける結果になりました。津門大塚町1～8号墳は、古墳時代の津門地域や阪神間の社会情勢を考えるうえで、**とても貴重な発見**といえます。

# つとおおつかちょう 津門大塚町遺跡

## 現地説明会資料



兵庫県教育委員会  
（公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部  
〒675-0142  
兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1（兵庫県立考古博物館内）  
URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>

## はじめに

（公財）兵庫県まちづくり技術センターでは、兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）整備に伴い、兵庫県教育委員会から委託を受けて、7月から津門大塚町遺跡の発掘調査を行っています。

調査の結果、**埋没古墳群**が見つかりました。そこで、今回の説明会では、この古墳群を中心に古墳時代の遺構と遺物をご覧ください。



調査地周辺の風景（南から北を望む）

## 古墳時代の津門地域

津門地域には**津門大塚山古墳**と**津門稲荷山古墳**という、2基の前方後円墳があったとされています。これらの古墳は大正時代に墳丘が消失したと記され、現在も正確な場所が分かっていません。**津門大塚町遺跡**は、この津門大塚山古墳の推定地にあたり、津門稲荷山古墳の推定地には**津門稲荷町遺跡**があります。

津門大塚町遺跡と津門稲荷町遺跡の過去の調査では、古墳時代中期から後期（5～6世紀頃）の埴輪や須恵器が出土しています。そのため津門地域には上記2基の古墳以外にも複数の古墳があるのではないかと考えられています。

一方、集落遺跡は古墳時代中期（5世紀頃）の集落跡とされる、**高畑町遺跡**や**津門大筒町遺跡**が存在しており、津門地域の古墳との関係を考える上で重要な遺跡です。



津門地域の主要遺跡

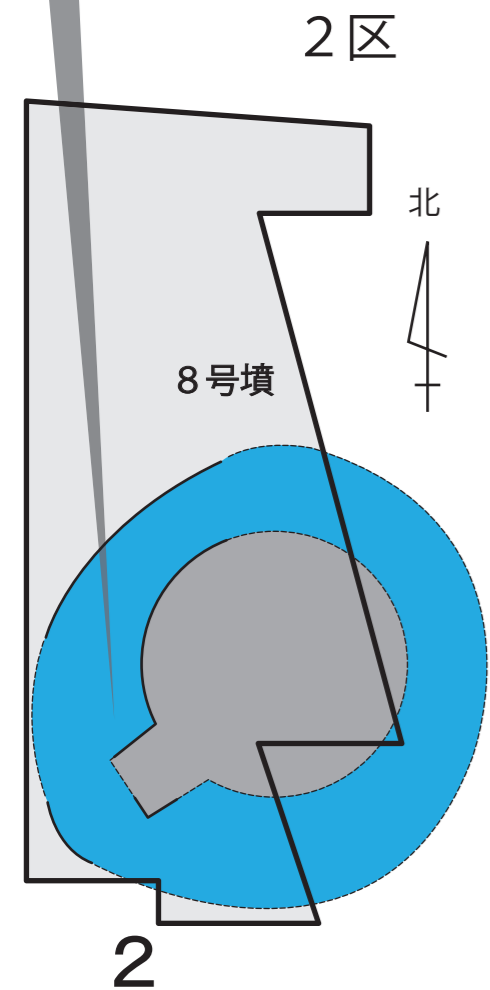
（国土地理院地図に加筆して作成）



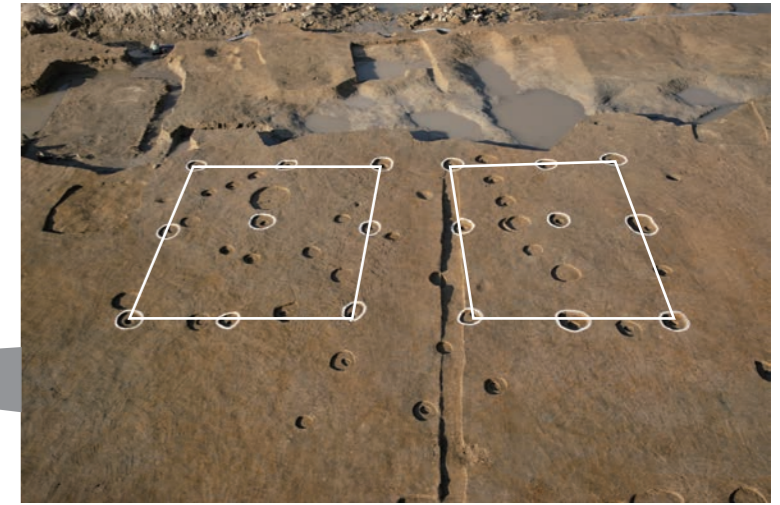
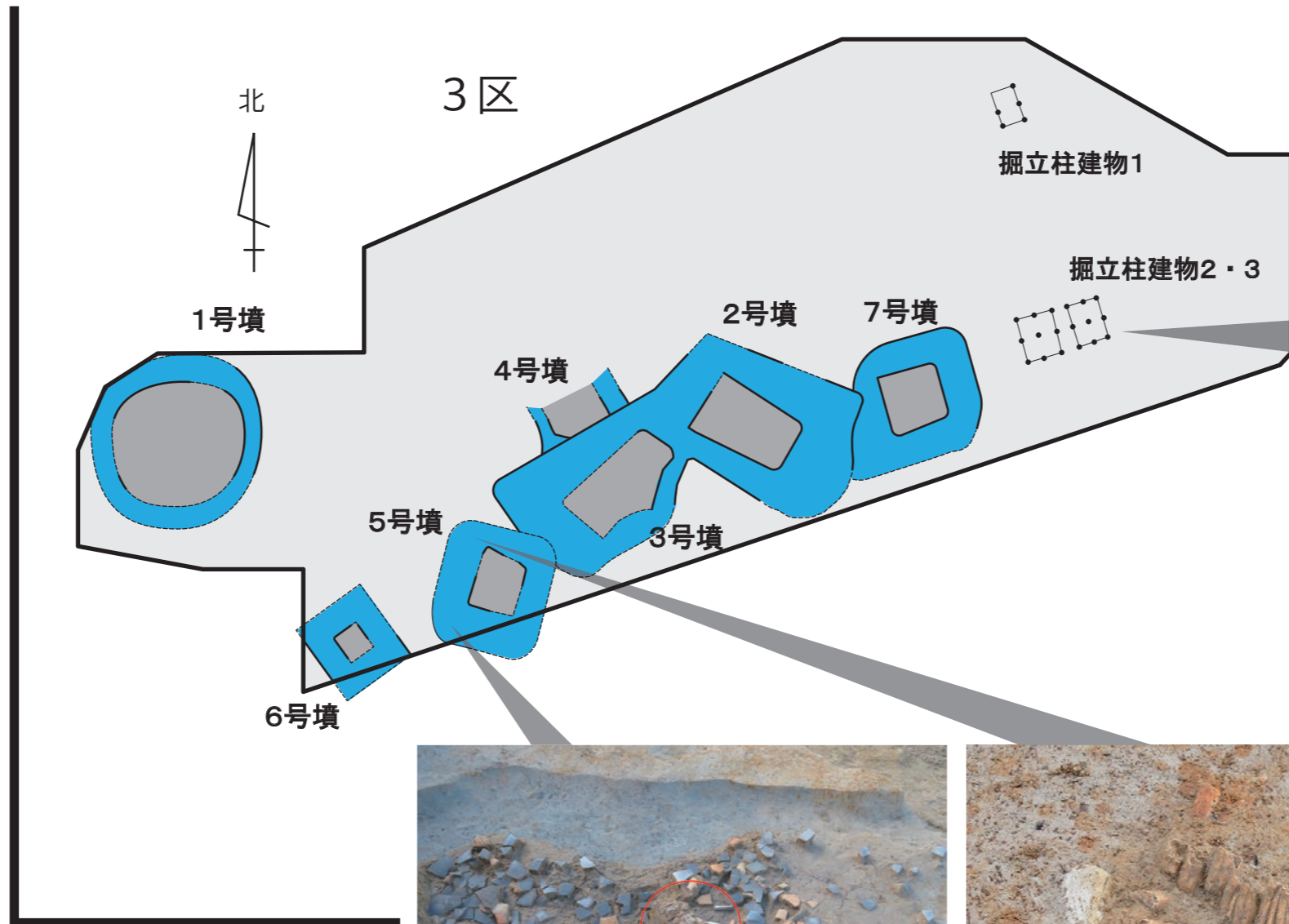
8号墳全景（南西から北東を望む）



8号墳くびれ部から出土した遺物  
（北西から南東を望む）



2区全景垂直写真（上が北）



掘立柱建物2・3（南から北を望む）



5号墳周濠から出土した須恵器と馬歯  
（東から西を望む）



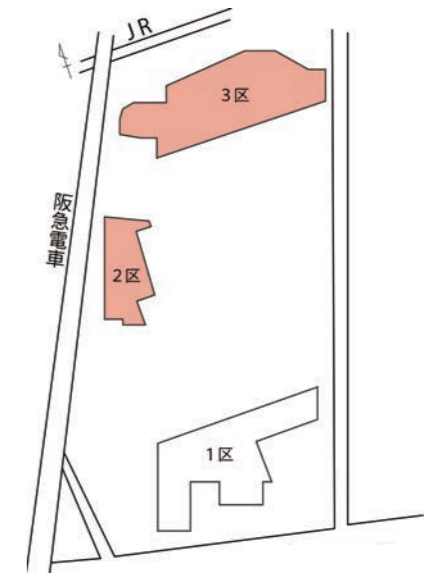
5号墳周濠から出土した牛歯  
（北から南を望む）



馬歯（上が東）



3区全景垂直写真（上が北）



調査区配置図